



◎第四調査部委員會

第四調査部第四回委員會は五月一日午後五時より丸ノ内帝國鐵道協會に於て開催、谷口委員長、新居、佐藤、三浦岩澤、永田、加藤、櫻井、大石、磯谷、近藤、谷口、藤村の各委員、鹽田囑託(以上内務省側)、古川、橋口の兩委員、岡田、岡部、瀧澤、稻葉の各技師(鐵道省側)、金子委員、上村道路課長(以上東京府)、今井委員(東京市)、都筑幹事等出席

谷口委員長 開會の挨拶をなし、先づ鐵道省側委員提出の議案に付き説明審理し以て内務省側委員提出の議案説明あり、審議の結果、兩案は其の内容大體同一なるを以つて

一括して小委員會に附議し、慎重審議することに決定して午後九時散會。(都筑)

◎第八調査部委員會

第八調査部第三回委員會は昭和十一年五月五日午前十一時より土木局道路課長室に於て開催、岩澤委員長以下、新居、三浦、近藤、藤村の各委員、都筑幹事出席し、道路改良史原稿調製要項に就いて慎重審議し、午後三時三十分散會。(都筑)

◎國道改良促進の陳情

本會員静岡縣磐田郡見付町々長前島亮治氏は同縣を貫通せる國道一號中の未改良部分の改良促進の意見を左に通陳情せられた、同縣を通過せる一號國道は其延長約一八一、〇八五米で未改良部分は一、二、四一九米を算す而かも峻坂難路も大體改良せられ五大橋は架設せられたれば全路に互りての改良は大に促進すべき理由の存するものがあるは敢

て言を要せざる所である國縣の財政上の都合に依り速に其の實現を見んことは何人も切望する所であらう。

陳情書

玆ニ陳情致候要領ハ本町地内ヲ縦貫スル國道第一號線ノ連櫓市街地ノ局部擴張工事ヲ御施行願度義ニ御座候

本町ハ東海道ノ宿驛ニシテ戸數二千人人口一萬餘遠江國府ノ

所在地トシテ市街古ク舊態ヲ改ムルコトモ少ナク從テ國道

ノ如キ狹隘甚シク小路南北ニ派出シ自動車ノ交通轉向ニ危

險此上ナク雨雪ノ場合ハ泥濘店頭ニ飛沫シテ汚穢言語ニ絶

シ或ハ石礫跳飛シテウインドヲ破損シ往々交通事故ヲ惹起

シ實ニ憂慮寒心ニ堪ヘサル次第ニ御座候西方中泉町ヲ經テ

濱松市ニ通ズル國道只來坂ハ先年改築セラレ東方袋井ニ至

ル三本松附近ノ國道モ之レ亦擴張セラレタルモ市街ノ中央

ニシテ交通頻繁ナル部分ハ依然古昔ノ幅員ヲ有スルモノナ

レバ定期乗合貸切タクシーノ自動車織ルガ如ク輻輳シ互ニ

通過スルコトヲ得ズ出合毎ニ停車スルノ餘儀ナキ爲自動車

ハ勿論人馬ノ通行ニモ支障ヲ來シ町民ノ困惑名狀スペカラ

ザル現狀ニ御座候

國道第一號線ノ改良計畫ニ就テハ既ニ御方針モ有之ベクト

存ジ候ヘ共實地御檢分ノ上何卒町民ノ熱意御採擇相仰キ度

別紙交通量調査御參考ニ添付此段陳情候也

昭和十一年四月三十日

道路改良會 通常會員
静岡縣磐田郡見付町長

前 町 亮 治

道路改良會長 水野鍊太郎殿

◎大分縣道路工夫の表彰

大分縣に於ては道路の維持保全か道路工夫の勤務成績の如何に至大の關係あるを以て前年來優良工夫を表彰し其の奮勵を期待する所である依つて本年も天長の佳節に表彰式を舉行する企であるので盛今朝太郎外二名に對し本會より表彰ありたき旨同縣知事より申出てられたるを以て左之通表彰した。

表 彰

竹田土木出張所

道路工夫 盛今朝太郎

宮崎縣高千穂土木出張所

佐伯土木出張所

道路工夫 藤田七郎

通

同 前田角治

各通

同縣 野田善兵衛

三重土木出張所 同 松本徳一

同縣 宮崎土木出張所

多年道路ノ維修理ニ盡瘁シ功勞尠カラサルモノアリ我國路

同 奉壽政市

政ノ爲寔ニ欣快ニ勝ヘス仍テ之ヲ旌彰ス

多年道路ノ維持修理ニ盡瘁シ功勞尠カラザルモノアリ我

昭和十一年四月二十九日

國路政ノ爲寔ニ欣快ニ勝ヘス仍テ之ヲ表彰ス

道路改良會長正三位勳一等法學博士 水野鍊太郎

昭和十一年四月二十九日

道路改良會長正三位勳一等法學博士 水野鍊太郎

◎宮崎縣修路工夫表彰

宮崎縣に於ては客年優良修路工夫を表彰したる處其の効果の大なるものありしを以て本年天長の佳節をトシ復修路工夫を嚴選し表彰の事を企て藤田七郎外二名に對し本會より表彰あらんことを當該知事より申請ありたるを以て左記之通表彰した。

表彰

